

クリスマスの贈り物

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-10-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐々木, 哲夫 メールアドレス: 所属: |
| URL | https://tohoku-gakuin.repo.nii.ac.jp/records/24743 |

「クリスマスMASの贈り物」

宗 教 部 長 佐々木 哲 夫

マタイによる福音書、第二章七〜一一節

7そこで、ヘロデは占星術の学者たちをひそかに呼び寄せ、星の現れた時期を確かめた。

8そして、「行って、その子のことを詳しく調べ、見つかったら知らせてくれ。わたしも行って拝もう」と言ってベツレヘムへ送り出した。9彼らが王の言葉を聞いて出かけると、東方で見た星が先立って進み、ついに幼子のいる場所の上に止まった。10学者たちはその星を見て喜びにあふれた。11家に入ってみると、幼子は母マリアと共におられた。彼らはひれ伏して幼子を拝み、宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。

*

赤ちゃんが生まれたという知らせが入ると、最初に多くの人の思うことは、男の子か女の子かなど赤ちゃんのことであり、また、どんな贈り物をしようかということでもあります。約二千年前、イエス・キリスト誕生のときもそうでした。マタイの福音書に記されている学者たちは、「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか」とユダヤの王ヘロデに尋ねております。

彼らは、赤ちゃんがユダヤ人の王として生まれたことをはっきりと認識しており、黄金、乳香、没薬の贈り物を携えてきたのでした。

ところで、どのようにして、占星術者たちは、赤ちゃんの誕生を知ったのでしょうか。彼らは「東方でその方の星を見た」と証言しています。例えば、十七世紀初頭、天文学者ケプラーは、この聖書の記述を、木星と土星が魚座で会合した現象だったと考えました。古代バビロニアなどでは、木星は偉大な幸運を告げる星、土星はユダヤ人の神について告げる星、魚座は、地中海海岸の国を意味していたので、占星術者たちは、「ユダヤ人の中に神のごとき有力な王が生まれた」と解釈し、巡礼をかねてエルサレムに旅してきたと想像されます。

いづれにせよ、彼らは、贈り物を携えていました。家に入ってみると、幼子は母マリアと共にいます。彼らは、ひれ伏して拝み、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げたのでした。

* *

さて、最初のクリスマスの夜に献げられた贈り物は、黄金、乳香、没薬だけではありません。それよりもはるかに貴重な贈り物が献げられました。すなわち、神の子であるイエス・キリスト自身です。イエス・キリストの誕生自体が、神から私たちに与えられた贈り物だったのです。

イエス・キリストの誕生について、祭司長や律法学者たちは、預言者ミカの言葉を引用し、「ユダの地、ベツレヘムよ、お前はユダの指導者たちの中で決していちばん小さいものではない。お前

から指導者が現れ、わたしの民イスラエルの牧者となる」と説明しました。私たちは、本日、預言者イザヤの言葉も参照したいと思います。「多くの人の過ちを担い、背いた者のために執り成しをしたのは、この人であった。」すなわち、何人かの旧約聖書の著者たちは、はるか以前に、救い主の誕生を告げていたのです。

さらに、イエス・キリストの死後、十字架の生涯を見届けたヨハネは、クリスマスのお出来事を簡潔に記しています。「神は、独り子を世にお遣わしになりました。その方によって、わたしたちが生きるようになるためです。ここに、神の愛がわたしたちの内に示されました。わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります。」イエス・キリストの誕生、それは、神から私たちに与えられた無償の贈り物、愛の現れでした。

* * *

さて、無償の愛の贈り物、贈与の理念は、最初のクリスマス以降、キリスト教の重要な価値観となり、また人々の生きる根本的な動機付けとなりました。

もう百年以上昔のことですが、大阪の農学校に学ぶ一人の青年が在学中にキリスト教徒になりました。農学校卒業後、和歌山県庁に勤めるのですが、日露戦争時代の非戦論争に巻き込まれ、彼は職を辞し、神学に転じることになります。その後、牧師となり、農業指導など社会活動に参加し、

やがて、農民運動を主導して行くことになります。彼が、一九〇九年（明治四二年）に東北学院神学部を卒業した杉山元治郎です。賀川豊彦と共に農協（今日のJA）を創設したことなどについて、高等学校『日本史B』の教科書に掲載された人物です。東六番丁教会や小高教会の牧師の働きにおいて彼を支えていたものは、イエス・キリストに倣う無償の愛を共に生きる人々に分かち合うとの姿勢だったと表現することができます。それは、特に、小高の農民たちをして「無給の農業指導員」を得たとの共感を与えたほどです。

このように、キリスト教の理念である無償の愛の贈り物を実践した人物の例を挙げるならば、古今東西、限らない数の人物を挙げることが出来ることでしょう。彼らに共通している根本理念は、神がイエス・キリストにおいて示した無償の愛に倣うことだったのです。

* * *

さて、必要としている人々に無償の贈り物を献げるといふ価値観は、最初のクリスマスにおいて、目に見える形、イエスキリストとして神から私たちに与えられた贈り物です。爾来、バザーなどにおいて物を献げる、教会や社会鍋に献金する、さまざま分野における神の働きに生涯を献げて参与する、すなわち献身するなど、多くの愛の贈り物が二千年の歴史にわたって献げられてきました。二〇一〇年、東北学院大学のクリスマス礼拝に私たちは招かれています。私たちもまた世界の多くの人々と共にクリスマスの恵みを共有し、実践するものでありたいと願います。

『受けるよりは与える方が幸いである』

(使徒言行録二〇章三五節)